

<全体分析>

試験時間 60 分

<p>解答形式                  マーク式・記述式                  分量・難易 (前年比較)                  分量 (減少・<b>やや減少</b>・変化なし・やや増加・増加)                  難易 (易化・やや易化・<b>変化なし</b>・やや難化・難化)</p> <p>大問数は一昨年度・昨年度は9題であったが、今年度は7題であった。解答数は昨年度が46問で、今年度が42問でやや減少したが、例年、総じて40問前後の傾向が続いている。2020年度まで論述は定番であったが、今年度も出題されなかった。また正誤判定では例年判断が難しいものが散見されるが、今年度も同様で、全体としての難易度も昨年度と同程度であった。</p> <p>出題の特徴                  2018年度以降、古代史から現代史まで幅広く出題される傾向が続いていたが、今年度は20世紀以降の歴史がまったく出題されず、現代史の出題が少なかった2017年度以前の傾向に戻っている。また、ヨーロッパ美術史を中心に、図版をとまなう文化史が出題されるのも特徴で、今年度はアイコンとガンダーラ仏が問われた。</p> <p>その他トピックス                  先史時代を出題するのも従来の特徴のひとつであったが、2019年度以降は出題されていない。なお、〔IV〕設問6は、消去法でも解き難く、「ゲーテンベルクは葡萄圧搾機を改造して、プレス式の印刷機を考案した。」という正文は、非常に細かな知識で難問であるが、2022年度早慶レベル模試で、15世紀のヨーロッパでブドウ搾りの作業をヒントに活版印刷術が考案されたことを取り上げたので、受験者は大変有利であった。</p>
--

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択式 記述式	古代オリエント ・古代ギリシアの都市	設問1. 「シュメール人の都市国家」という条件だけでは解答を一つに絞り込めず、「ウルのスタンダード」と呼ばれる出土品を知っている必要があり、難しい。設問3. 空欄Cに「アマルナ (テル=エル=アマルナ)」が入ることは平易だが、「アマルナ文書」という語は教科書に見えず、非常に細かい。設問5. イ. タレントウムはやや細かいが、早大受験者なら必須。本問も消去法では解き難い。ローマがこの都市を占領してイタリア半島を統一したことも頻出なので、覚えておこう。	やや難
II	選択式 記述式	東アジア文化圏の形成過程(魏晋南北朝～唐)	設問1. 「現在の地名」が問われていることに注意。設問2. イの陶淵明、ウの王羲之、エの顧愷之はいずれも東晋で活躍した人物で、年代の前後は判断し難いが、それより後の梁で活躍したのがアの昭明太子なので、四番目を選ぶのは容易である。設問5. ウ. 9世紀後半のこと。設問6. 文学部では、2020年度に揚州に関する正誤判定問題が出題され、唐代に蕃坊(外国人居留地)が設けられたことなどが問われた。	標準
III	選択式 記述式	ヨーロッパに影響を与えたイスラームの技術	設問3. エ. 「シーア派」ではなく「スンナ派」。設問4. 文学部では2020年度にも「カーリミー(商人)」を記述させる問題が出題されている。	やや易

# 地歴公民 (世界史) 早稲田大学 文学部 2/2

IV	選択式 記述式	中近世ヨーロッパの教皇権	設問2. 開墾運動への言及がなく、「11世紀末にブルゴーニュ地方に創建」という手掛かりから答えるのは、細かい。早大レベルでは、主な修道院や修道会は、創建の時期と場所まで覚えておく必要がある。設問4. エが15世紀で四番目であることは明らかだが、残りがウ(1346)→イ(1348頃から大流行)→ア(1358)の順であることは細かい。設問5. 「下線部Eの神学者」はウィクリフ。ウ. ウィクリフは14世紀の人物で、コンスタンツ公会議が開かれた15世紀前半にはすでに死去している。設問6. ア. グーテンベルクは15世紀の人物なので、1517年発表の「九十五カ条の論題」を印刷することは不可能。イ. そのような事実はないが、誤文と判断するのも難しい。エ. 『四十二行聖書』は従来のラテン語訳聖書で、また大量印刷でもなく、「民衆が読む」のは困難であった。消去法で解くにしても難問。設問7. エ. 『天球回転論』は、コペルニクスの著作。	やや難
V	選択式 記述式	中華帝国の諸宗教に対する公認の授与(～明清)	設問1. ア. 現在の新疆ウイグル自治区のトゥルファンにある。莫高窟を千仏洞と呼ぶこともあるので、惑わされた受験生もいただろう。設問5. 典札問題を想起する。設問6. 「明末清初に生きた知識人」「抗清闘争が失敗」だけでは、顧炎武か黄宗羲か絞り難い。それぞれの主著である『日知録』と『明夷待訪録』を覚えておく必要がある。	標準
VI	選択式 記述式	フランス革命・ナポレオン時代	設問2. エ. 国民議会(憲法制定国民議会)の時期に開始された政策。設問3. イ・ウが国民議会を主導したことは基本だが、山岳派最左派で国民公会で活躍したアのエベールは教科書記載がほとんどないので、消去法でも難しい。	標準
VII	選択式 記述式	「聖なる存在」の表現法(古代～中世)	設問2. イコンは、イエスや聖母などの聖像画で、主に板絵やモザイクで表されたことを想起すればよい。ア. エル＝グレコ「悔悛するマグダラのマリア」の一つ。イ. デューラーの自画像の一つ。エ. ベラスケス「十字架上のキリスト」。なお、文学部では2019年度に、ユスティニアヌス1世らが描かれたサン＝ヴィターレ聖堂のモザイク画の図版を用いた出題があった。設問4. ガンダーラ仏が、ヘレニズム美術の影響を受け、彫りの深い写実的な顔立ちやひだのある衣服などを特徴とすることから、イ・ウに絞り、イは仏像ではないと考えてウと判断する。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

文化史、とりわけ美術史がほぼ例年出題されるので、意識して学習したい。全体的に、細かい事項にとらわれず基本事項に重点を置いた学習を心がけてほしいが、正誤判定問題の一部に難度の高いものが出題される傾向があるので、しっかり対策をしておこう。また、今年度は先史時代や論述が出題されなかったが、日頃の学習では怠らないように。